

福岡市天神二丁目中心部に位置する公共空間の利用実態に関する研究

正会員 ○春山 詩菜*
同 黒瀬 武史**

公開空地 公共空間 利用実態
福岡市

1 研究の概要

1-1 研究の背景と目的

福岡県福岡市中央区にある天神地区は商業施設や鉄道駅が集中するとともに、公園や公開空地などの様々な公共空間が存在している。本研究の目的は天神地区の公共空間の機能や役割といった利用実態を明らかにすることである。なお、本研究では公園と総合設計・地区計画制度などによって定められた公開空地を公共空間と定義する。

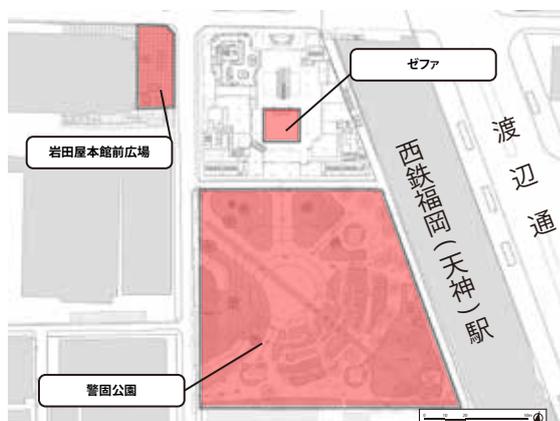


図1 対象地位置図

1-3 研究の方法

天神地区に多数存在している公共空間のうち、同地区の交通の起点となっている西鉄福岡（天神）駅の西に位置する警固公園、警固公園の北に位置するソラリアプラザ1階の公開空地ゼファ、警固公園とゼファの西側に位置する岩田屋本館前の公開空地を対象地として利用実態調査を行い、その結果を元に分析を行った。

1-4 既往研究と本研究の位置付け

全国の公開空地の利用に関する研究としては、平面形態や設置物などの観点から利用実態調査や空間の評価を行った研究¹⁾²⁾、公開空地のイベント活用に関する研究³⁾といった様々な研究がなされている。また、福岡市の公共空間に関する研究としては、公共空間の空間構成に関する研究⁴⁾や公開空地と商業施設の関係に関する研究⁵⁾等がある。これらは公共空間あるいは公開空地を空間周辺環境に関連させたもの、単体、もしくはある地域全体を総合的に研究している。本研究では、福岡市における公園と公開空地という、近接した公共空間の役割と利用者の違いに注目した点に新規性がある。

2 対象地について

2-1 対象地の成り立ち

戦前、現在の警固公園の場所には高等小学校が、ソラリアプラザ（商業施設・ホテル複合施設）が建つ敷地には福岡県立図書館があったが、これらの施設はいずれも1945年の福岡大空襲によって焼失した。学校の跡地は戦災復興によって現在の警固公園に整備された。県立図書館が焼失した跡地には、1955年に西鉄スポーツセンターが開館し、福岡市民の娯楽の中心になった。西鉄スポーツセンターの閉館後、1989年に現在のソラリアプラザが開館した。岩田屋は渡辺通沿いにあったが、2004年に現在の場所に移転した⁶⁾。

2-2 地区計画と警固公園再整備事業

対象地は天神地区の中でも天神のターミナルの機能の強化と歩行者の回遊性の向上を目的として、天神二丁目地区計画、天神二丁目地区再開発地区計画の対象区域に指定されている⁷⁾。警固公園は老朽化や安全性が問題視されていたため、福岡市によって2012年に再整備事業が行われた。公園の再整備と合わせて、ソラリアプラザの警固公園側のファサードの改修も行われた⁸⁾。

3 利用実態調査

3-1 利用実態調査の概要

2016年10月4日火曜日の8時から21時まで、警固公園、ゼファ、岩田屋本館前広場を対象に利用実態調査を行った。調査は、3つの対象地を30分毎に、利用者の位置・体勢・行動を調査員が目視により記録した。また、各対象地の概ね全景を画角としてタイムラプス撮影を5秒毎に行い、詳細分析の補助的な資料とした。

3-2 集計データに基づく分析

利用実態調査で得られた利用者のデータを、男女、行動、体勢ごとに時間帯別に集計して分析を行った。これより、利用者の男女比においてはゼファは女性利用者、警固公園は男性利用者の割合が高いこと、行動においてはゼファと岩田屋本館前広場は行動が制約され、警固公園は行動の自由度が高いという特徴が明らかになった。また同時に、タイムラプス撮影のデータを用いて滞在時間を集計した^{注1)}ところ、滞在時間は最もゼファが長く岩田屋本館前広場が最も短いという特徴が見られることがわかった。

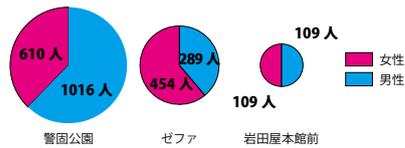


図2 利用者合計

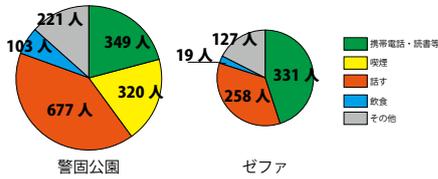


図3 行動比較

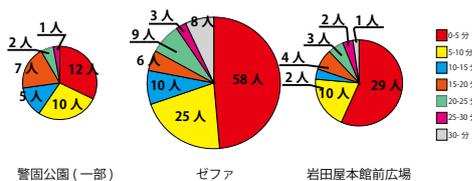


図4 滞在時間比較

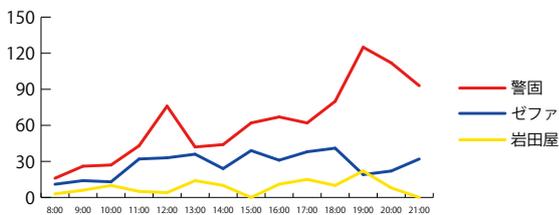


図5 利用者推移

3-3 プロットデータに基づく分析

調査員が作成した各空間のプロット図を8時から21時分を重ね合わせて、プロット図(図6,7)を作成した。これらの図から対象とした空間それぞれにおいて、利用者が集中している場所があることがわかった。

特に警固公園は図7に示すように人が集まる場所が複数見られる。ベンチ・石ゾーン(図10-①)、ライオン広場側入り口ゾーン(同図②)、遊具ゾーン(同図③)、喫煙所ゾーン(同図④)、警固神社側通路ゾーン(同図⑤)である。これらのゾーン毎にも利用者、そこで行われている行動や滞在時間に違いがあることがわかった。



図6 岩田屋プロット

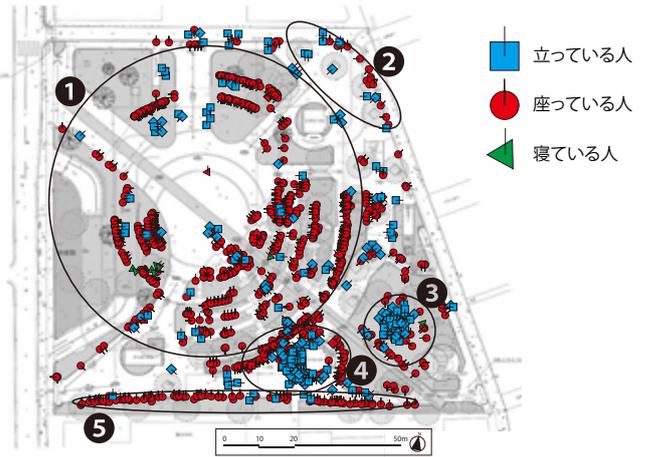


図7 警固公園プロット

3-4 分析のまとめ

集計データの分析と、プロットデータの分析を表にまとめると表1のようなになる。対象地ごとの違いに加えて対象地の中に存在する人が集まる場所ごとにもそれぞれ特徴があることがわかった。

表1 対象地別比較

| | 位置付け | 環境 | 男女比 | 利用者 | 滞在時間 |
|----------|------|----|------|-----|------|
| 警固公園 | 公園 | 屋外 | 男性 多 | 多様 | やや長い |
| 岩田屋本館前広場 | 公開空地 | 屋外 | 均等 | 特定 | 短い |
| ゼファ | 公開空地 | 屋内 | 女性 多 | 多様 | 長い |

4 本研究のまとめと今後の課題

本研究は実態調査に基づき、近接する公共空間においても、利用者の属性や行動、滞在時間が異なることを指摘した。その背景には、公園と公開空地という違いや、屋内・屋外という空間特性の違いがあることが推測される。

一方で本調査では公共空間の相互の関係は十分解明できなかった。また、今回行った利用実態調査は晩夏の平日に行ったが、気候の変化や休日・平日等の条件を変えて今後さらに調査を行う必要がある。いずれも今後の課題としたい。

注1) 滞在時間の集計において、警固公園に関してはタイムラプス撮影データで鮮明に確認できたソラリアプラザ入り口側の一部のみの計測とした。

参考文献

- 林直樹：市街地環境における公開空地の利用実態(東京都港区),日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1, pp.625-626, 2005
- 森田有貴・杉本省三：平面形態と利用実態からみた公開空地の性質について：東京都千代田区を対象として, 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp.725-726, 2010
- 河合美幸・横山俊：都心における公開空地の活用実態とその有効性：大阪市北区・中央区のイベント活用を事例として, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1, pp.805-806, 2009
- 小川博和、花岡謙司、出口敦：公共空間の重層的利用による都心の賑わい創出に関する研究 - 福岡市都心部におけるケーススタディ, 日本建築学会研究報告, 九州支部, 3, 計画系 (40), pp.337-340, 2001
- 福島加奈,黒瀬重幸：都心商業空間における歩行者行動とパブリックスペースに関する研究：福岡市天神地区を事例に, 日本建築学会研究報告書, 九州支部, 3, 計画系 (47), pp.573-576, 2008
- 柳 猛直：福岡歴史探訪中央区編,海鳥社,1996.4
- 福岡市HP 地区計画決定状況一覧(<http://www.city.fukuoka.lg.jp/jutaku-toshi/toshikeikaku/machi/chiku-keikakuketteijouyouichiran.html>),2016.12.1閲覧
- 福岡大学工学部 景観まちづくり研究室 プロジェクト・レポート：警固公園再整備事業